

〈事例紹介〉生涯学習活動で啓発される「学ぶ力」

～生涯学習情報紙「マイ・パートナー」ボランティア編集グループ
「愛エヌジー」の事例より～

福 谷 麻 里
(やしお生涯学習館)

埼玉県八潮市は、平成3年7月1日に県内で初めて「生涯学習都市宣言」を行なった市であり、また、市長部局に「生涯学習まちづくり推進課」（平成14年4月に一部組織改正有り）を置くなど、生涯学習を基軸としたまちづくりに力を入れている市としても有名である。都市宣言をきっかけに、企画された一つが本事例である「生涯学習情報紙『マイ・パートナー』ボランティア編集グループ『愛エヌジー』」である。

1 「愛エヌジー」とは？

ここで、「愛エヌジー」を説明するにあたり、先に「マイ・パートナー」の説明を行なうものとする。

(1) 「マイ・パートナー」とは？

「マイ・パートナー」は、八潮市が生涯学習都市宣言を行なったことをきっかけに、市民への生涯学習情報の伝言板として平成4年7月に創刊された情報紙である。内容は、自分たちが知りたいことや興味のあること、知ってもらいたい場所、地域の課題や問題、市内の隠れた有名人や話題など様々である。それらをただの情報提供だけでなく、市民ならではの感性で取材し、記事にしているのが大きな特徴である。

創刊から約11年。最新号では58号を数えるこの「マイ・パートナー」は、



近年では記事に対する問合せも増え、本当の意味で市民と生涯学習をつなぐ架け橋的存在に成長しつつある。

そして、この「マイ・パートナー」を編集しているボランティアグループが「愛エヌジー」である。

(表1)

	創刊当時	現 在
版のサイズ	A 4 版	A 3 版
発行回数	季刊	年 6 回
発行部数	25,700部	30,000部
配布方法	町会・自治会配布	新聞折込み(全戸配布)

(2) 「愛エヌジー」の語源とは？

「愛エヌジー」は、NGを恐れない(＝エヌジーを愛する)という意味とING(＝進行形)という2つの意味からつけられた名前だそうである。新聞広報や市職員の依頼に応えた主婦5名で始まった「愛エヌジー」は、現在では、男性や若いお母さんも含み10名までに増え、活気に溢れた編集広報活動を行っている。



編集会議風景

ここで、参考までに「愛エヌジー」に対する事務局(創刊当時は、市役所で行っていたが、現在では(財)やしお生涯学習まちづくり財団がその役を担っている)の支援等について述べておきたい。「マイ・パートナー」は、記事の企画、取材、執筆、

レイアウト等すべて「愛エヌジー」のメンバーが行なっている。それ以外の印刷会社との契約行為や配布先の手配などを中心に、予算面と発行責任のみを担っているのが事務局である。このような関わり方で、新たな取材先の幅が開拓されたり、配布先が広がるなどのメリットがあるとともに、「全体的に任されているのでやりがいがある」（「佐賀新聞」1997年9月24日の取材より）と「愛エヌジー」のメンバーも語っている。

2 「学ぶ力」とは？

「これからの子供たちに必要となるのは、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、自らを律しつつ、他人ととともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性であると考えた。」これは、平成8年7月に提出された中央教育審議会答申の中で「生きる力」について述べられた部分である。この内容からわかるように「学ぶ力」は、「生きる力」（あるいは「生きる力」の一部）、あるいは、「問題解決能力」などと同義と捕らえられることが多い。また、学校時代に身につける必要がある能力であると考えられていることが多い。

しかし、生涯学習審議会答申「学習の成果を幅広く生かす～生涯学習の成果を生かすための方策について～」では、「地域社会での様々な課題を解決するためには、国や地方の行政に依存するばかりでは効果的できめ細かな対応は難しい。住民の一人ひとりが、それぞれのニーズに応じて、問題解決を目指して学習し、積極的に地域社会に関わっていく姿勢を持つことが必要になっている。住民が個人として、また、非営利での公益的なグループ・団体の一員として、行政や企業の一員として、行政や企業等とも良好な連携・協力の関係を作りながら活動を進めることが必要になっている。そのことにより、結果として、行政に効率的で質の高い施策の推進をもたらすこととなるし、企業にも、地域住民の信頼を得て、円滑な経済活動や社会的な貢献活動を行なう上での貴重な契機をもたらすことにもなる。」としており、住民（成人後）にとっても、「問題解決能力」は重要であることがわかる。

ここで、この「学ぶ力」を田中 博之氏（大阪教育大学助教授）の論（「学ぶ方を学ぶ」<http://www.nichibun-g.co.jp/shakai/kyoshitsu/022/k220205.htm>）を参照し、具体的な実戦力としてまとめておく。

（表2）

1	知る力	①観察力・記憶力・分析力
		②調査研究能力
2	表す力	①コミュニケーション能力
		②総合表現力
3	律する力	①学習計画能力
		②学習評価力
4	創る力	①作品制作力
		②メディアリテラシー
5	関わる力	①ネットワークリテラシー
		②ボランティアの実践力
6	考える力	①論理的思考力
		②情意的思考力

これらは、「総合学習」の中で培われるべき能力としてまとめられたものである。しかし、その力は、地域の課題を解決していくために成人にも求められるものと考えられる。

そこで、この実践力をもとに「愛エヌジー」の11年の経過の中で上記の能力がどのように培われてきているか検討していくこととする。

3 「愛エヌジー」の活動により啓発された能力

(1) 知る力

ここで言う「知る力」とは、「情報収集・情報整理能力」と言い換えることができる。

「愛エヌジー」にとって、この能力はとても重要なものである。先にも述べたように現在「マイ・パートナー」は、58号に及ぶ。その記事は、毎号違

うものとなっている。人口 75,000 人の小さなまちで、年間 4～6 の特集や記事を探してくることは、容易なことではない。常にアンテナを張りめぐらし、日々の生活の中で感じる疑問などを自分たちの中で明確にするように努力しているからできることであろう。このようなことから、この「情報収集・情報整理能力」は、記事の素材を探そうとする中で自然と培われてきたものと考えられる。

(2) 表す力

ここで言う「表す力」とは、「コミュニケーション能力」と言い換えることができる。

「愛エヌジー」にとって、この「コミュニケーション能力」は、一つに取材などの際に必要とされる能力であり、もう一方として、「愛エヌジー」内での編集会議などで必要とされる能力でもある。

これらの能力は、経験の中で培われていると言える。「話しやすい雰囲気作り」「的確な質問」など、特にその時々で違う相手に会う取材では、臨機応変な対応が必要となり、自然とこの能力が身についたと言える。

(3) 律する力

ここで言う「律する力」とは、「自己評価・計画力」などと言い換えることができる。

この力は、「マイ・パートナー」の直接の作成に必要とされる力というよりは、「愛エヌジー」が団体としてどう活動していくかということや、メンバー一人ひとりの成長につながるものと考えられる。

「愛エヌジー」自身の「文章力・構成力」に対する評価（自己評価）は低い。これが、正当な評価であるかどうかは別として、この「自己評価」に基づき、メンバーが独自に研修をしていることが、重要な点だと考えられる。

(表 3)

創刊当時	「市広報担当者から講習」	受講
H. 6. 6. 29・30	「平成 6 年度彩の国 女性リーダーネットワークセミナー」	講師・実習 アドバイス
H. 8. 10. 25	テレビ埼玉 「いい人 いいまち 再発見！」	取材を受ける

H. 9. 3. 21	「平成 8 年度あだち区民大学 学びずとインストラクター養成セミナー」	講師
H. 10. 3. 4	八潮市出前講座 「PTA・地域の広報紙づくり講座」	受講
H. 10. 3. 20	「平成 9 年度あだち区民大学 学びずとインストラクター養成セミナー」	講師
H. 11. 3. 19	「平成 10 年度あだち区民大学 学びずとインストラクター養成セミナー」	講師
H. 12. 秋	楽習館自主事業 「文章の書き方講座～広報紙の作り方」	受講

「愛エヌジー」は、創刊当時から上記をはじめ、個人的にもいくつかの研修に参加したり、研修の講師などを引き受けたりしてきた。この「自己評価」→「研修」という流れは、「問題解決学習」としては重要な流れである。また、自己を律し「計画的」に学習をすすめる力として「計画性」も培われていると言えるだろう。

さらに、この「計画力」は、各号ごとの「マイ・パートナー」の発行からも培われている。広報紙を発行する際には、以下のような流れがある。

「編集会議」(企画の相談)→「取材のアポ」→「取材」→「記事を書く」
→「編集会議」(構成の相談)→「入稿」→「第一校正」→「第二校正」→
「第三校正」→「納品」→「取材先へのお礼状」

編集者は、上記のような流れを計画的にこなさなければならない。それを、グループで行なう場合、より計画性が求められる。

現在、「愛エヌジー」は、年間計画を立て、それに合わせて部屋(編集会議をするためのもの)を予約し、会議を行なうという形をとっている。このような形は、サークル活動をしていれば当然ともいえるものであるが、かつて、納期や校正の日程に合わせて不定期に会議を開いていた時は、なかなかメンバーが多数集まったの編集会議を行なえない状況が続いていた。現在は、年間で計画を立て、編集会議を夜に開催するなどの工夫で、各号に関わるメンバーも増えた。これは、「計画」をたて、それをみんなに知らせることで、メンバーの幅を広げようという努力であり、自分達の問題に気づき、実現す

る力こそ「計画力」と言ってよいだろう。

(4) 創る力

ここで言う「創る力」とは、「表現力・文章力・構成力」などと言い換えることができる。

「愛エヌジー」にとって、この能力はなくてはならないものである。「文章を書くこと」は、主婦になってしまうとその機会がなくなってしまうことが多い。「愛エヌジー」のメンバーも例外ではなく、創刊当時の5名のメンバーは、文章を書いたり、編集をしたりという経験はほとんどなかった。そのため、当初は情報提供が主な活動として考えられていたほどである。しかし、徐々に自分たちの情報を自分たちの言葉で伝えたいという思いが強くなり、事務局の手直しを減らしていったのである。さらに、最近では、レイアウトや字体、ポイント数、カラー、カットのイメージなど細かい指定まで行なうようになり、構成力にも格段の成長が見られるようになった。

文章・構成ともにメンバーは未だに「自信がない」と語ることが多い。それは、謙遜とよりの確に思い伝えたいという前向きな姿勢からくるものだと考えられる。

(5) 関わる力

ここで言う「関わる力」とは、「ネットワーク」と言い換えることができる。

この能力は、特に成人が学習をする上で、一番重要な能力と考えられる。そして、「愛エヌジー」の「学ぶ力」という意味で、一番評価してよい能力でもあろう。

「マイ・パートナー」の良いところは、そのまちで生活する人が、街の人間としての視点で、地に足のついたわかりやすい情報提供を行なっている所にある。そのため、取材先も当然まちの「どこか」だったり、「人」だったり、「施設」だったり、「行事」だったりする。その結果、自ずと人と人が知り合い、つながっていく。また、「愛エヌジー」の評価できる点は、それらの出会いや人を大事にしてきたことである。その結果、「マイ・パートナー」の記事への問合せも近年増え、「愛エヌジー」と「取材先」だけではなく、取材をされたことで、新たな関係がつながり、まちの中にネットワークが広がって行くことになる。これは、「愛エヌジー」の「ネットワーク能力」として、評価

してよいものと考えられる。

(6) 考える力

この能力は「論理的思考力」あるいは「情意的思考力」を言われると逆に難しく感じられる。しかし、純粹に「考える力」として捕らえるならば、問題を発見し、解決方法を検討し、それを実行することができる能力と言うことができる。前述のように(1)～(5)の力が培われていると言える状況であり、この「考える力」も自ずと培われつつあると言って良いだろう。

もう一方で、「愛エヌジー」の具体的な活動から見ると、記事を書くことで、取材してきた内容について、自分（あるいは自分たち）の考えをまとめていくことができるし、編集会議の中で、メンバー同士で意見交換することもできる。これも、当然「考える力」と言えるだろう。

さらに、追加して考えるとこの「情意的思考力」には、「自己内省」ということが含まれている。言い換えると、「振り返り」と言えるのではないかと考えられるが、現在の「愛エヌジー」では、特に「反省会」のようなものは行っていない。しかし、編集会議の中で、前号の「マイ・パートナー」についての感想などは出ているようである。今後、前に進むためにも「振り返り」をしていくこともより必要となっていくと考えられる。

このように、「愛エヌジー」の実践において、様々な能力が培われていることが良くわかる。

4 生涯学習によって啓発される「学ぶ力」

成人の学習と学校教育との大きな違いは、前者においては学習を意図的に操作する人間がいないことである。先に述べたように、「学ぶ力」が生涯学習社会に向けて、学校教育の中で培われなければならないものという考え方が中心となっている中、この「愛エヌジー」の事例は、成人になっても決して、「学ぶ力」を身につけることが手遅れではないことを示している。このように、実践の中で自然と身につけていくという方法は、要領はよくないが、地に足をつけ、ゆっくり時間をかけ、しかも、自分達の頭で考えて、自分達の

ペースで前に進むことができる。その分、「経過」すなわち、ここで言う「学ぶ力」のような「問題（自分に足りないものに気づく）」を発見し、解決していく力が身につけやすいと考えられる。

ここで、参考までに「愛エヌジー」自身が、自分たちの11年間をどう感じているかを記述しておきたい。

「愛エヌジー」代表者の言葉

「愛エヌジー」を始めたのは、「ボランティアに参加したい」という思いと「自分たちにとっての生涯学習にもなるのではないか」と考えてのことでした。

—11年たって、何か自分の中で変化はありましたか？

市の動き（例えば新しい施策や状況など）に敏感になると同時に、興味のアンテナが広がりました。また、雑誌などを見ても、常に「ここはこうした方が…」「こんなやり方もあるのか…」など物の見方が変わりました。

自分だけでなく「愛エヌジー」全体としても、仲間が増えたり、会議を夜にしたことで、出席者が増え会議に活気が出てきたことは、すごく良かったと思っている。

自分の趣味や資格に対する学習は、大人も子どもも、自分の意志で開始しやすい。しかし、社会的あるいは地域的課題などについて目をむけて行くことは、難しいものである。そのため、社会教育や生涯学習行政は、その課題を市民に考えてもらおうと、あらゆるイベントや講座を企画し、意識の啓発に努力している。しかし、この言葉から、「愛エヌジー」の中ではその意識が自ずと啓発されていることがわかる。この意識もまた、「学ぶ力」と言っても良いだろう。

さて、最後に、今後「愛エヌジー」により求められる能力を考えたい。前述のように、「関わる力」などを今後増やしていくことは、もちろんのこと、「律する力」をつけていくことを提案したい。この「律する力」は、「計画力」でもあると述べた。この「計画」、現在年間のものまでをたてて行っているが、今後は、さらに長いスパンの「計画」＝「目標・指針」といったものと考えていく必要があろう。計画を立てるためには、自ずと自分達の現状を知り、自分達の方向性を検討する必要があるが出てくるからである。

今後「愛エヌジー」が、これらの「学ぶ力」をより高め、学びを楽しんで活動していけることを期待したい。